

実社会対応プログラム(公募型研究テーマ)

- ◆課題(研究領域): 「制度、文化、公共心と経済社会の相互関連」
- ◆研究テーマ: 「効果的・持続的な災害伝承を目的にした
拠点構築手法のモデル化と実践的研究」

研究期間: H27.10~H30.9
委託費総額: 11,260千円

<研究代表者>

佐藤翔輔: 東北大学災害科学国際研究所



／助教

<専門分野>
災害社会情報学

<Webページ>

部局 <http://irides.tohoku.ac.jp/organization/faculty/infosociety/ssato.html>
個人 <https://sites.google.com/site/dcrssato/>

<研究目的・概要>

・東日本大震災の被災地では、展示・語り部・ガイド等の災害伝承事業が盛ん。一方で、科学的な効果は未検証。さらには活動の継続性に課題



研究者と実務者の協働アクションリサーチにより災害の経験・教訓を効果的・持続的に伝承する拠点とモデル構築を目指す

・コンテンツの収集・集約・可視化・発信を行うプロセス手法と、継続的な利用者の獲得を行うマネジメント手法を確立



科学的検証と効果の見える化で「被災地で災害を学ぶ」社会システムづくりに貢献する

<研究計画の特徴>

複数の専門分野と実務現場の密な連携

人文社会的・学際アプローチ



<目標とする研究成果>

次の3点を明らかにする

- (1) 情報の収集, 分析・要約, 可視化までの一連からなる「効果的な災害伝承に関する編集モデル」
- (2) 継続的な利用者確保するための「効果的な災害伝承に関するマーケティングモデル」
- (3) 利用者の防災・減災意識の変化をもたらす「災害伝承による効果的な防災意識変容モデル」